



# 雄 飛

校訓

考える人 心豊かな人 たくましい人

霧島市立国分南中学校

学校便り 12月1号

令和7年12月1日発行

## 歴史を変えたイノベーション ~種子島国産火縄銃誕生~

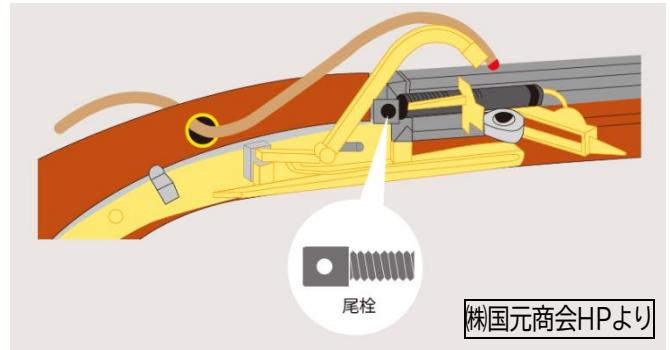
校長 平國弘明(ひらくに こうめい)

「戦国を変えたイノベーション」と題した番組の再放送を観る機会があった。舞台は、種子島。時は戦国時代、天文12年(1543年)8月25日。現在の南種子町に一隻の中国船が着く。その船に乗っていたポルトガル商人より火縄式鉄砲が伝えられた。この鉄砲を見た、時の島主、若干16歳の種子島時堯(たねがしま ときたか)は、銀37kgをもって、2挺を購入する。しかもそれに留まらず、これをつくることができないかと考えた。主に狩猟の道具として使用されていた鉄砲を武器にできなかいかと発想したのである。実は、この出来事の直前、禰寝氏(当時大隅南部を支配)との戦に敗れ、先祖代々統治していた屋久島を奪われたばかりであった。おそらくそのことは鉄砲への高い関心につながったのではないだろうか。そこで、当時、全国各地から優秀な刀鍛冶が集まっていた種子島。その中の一人、美濃国より島を訪れていた八板金兵衛にその複製を命じる。もともと種子島は、南方の火山島より黒潮に乗って大量の砂鉄が流れ着く場所にあり、「鉄は(他の場所では)掘る物、種子島では拾う物」と言われるほど容易に大量の鉄を得ることができた。そのような環境だったので、高い製鉄の技術も培われていた。よって刀鍛冶が各地より集まっていたと思われる。金兵衛は、試作に懸命に取り組む。しばらくして、壁にぶつかる。本体はできあがったものの、火縄式鉄砲は発砲後に火薬の燃えかすを取り出す必要があるのだが、この部分を尾栓といい、ネジ式になっていた。この雌ネジ(ネジを受ける側)の部分をどうしてもつくれずに思案する。この部分は、鉄砲の機密事項。ポルトガル人は簡単には教えてくれない。このネジの作成方法を聞き出すために、金兵衛は、苦心惨憺する。やっとの思いでその方法を習い、鉄砲本体が完成する。ほっとするのもつかの間、それ以上の難問があった。弾を飛ばす火薬である。火薬は、木炭、硫黄、硝石を混ぜてつくる。木炭は、木の豊富な種子島なので問題ない。硫黄も屋久島沖の口永良部島産のものが容易に手に入るのでクリア。問題は硝石である。当時、すべて輸入に頼っていた。当然、ポルトガル人は簡単には売ってくれない。驚くべき事に、時堯はこの硝石さえも自給を試みる。家来に命じ、種子島の中に硝石をつくるところを設置させ、なんと量産することに成功するのである。加えて、火薬の配合比も重要機密。これも家来の笠川小四郎が実験を重ね、爆発の最大となる配合比を見つけ出す。かくして国産火縄銃は完成した。そして、奪われていた屋久島をこの新兵器で奪還したと伝わる。この火縄銃は、ポルトガル製に比べ、頑丈となり、殺傷能力が上がっている。複製にして既に、元のものを凌駕するものになっていたのである。また、伝来よりわずか6ヶ月間で600挺の火縄銃を保有するまでになっていた。

ここで、時堯は種子島発展また維持のために、選択を迫られる。この火縄銃の技術を独占し、有効な戦術とするか、それとも有力大名との良好な関係を築く材料とするか。時堯は後者を選択し、島津氏や根来衆などに鉄砲に関する技術等を教えた。結果、種子島は戦乱に巻き込まれることなく、種子島家も島主を引



鹿児島県HPより



尾栓

株国元商会HPより

き継ぎ、現代に至るまで継承されている。

他国にも鉄砲はもたらされたが、どこの国も買うばかりで、自分で造ろうなどとは考えなかつた。考えたかもしれないが、造ることはできなかつた。種子島、日本だけがやり遂げた。1600年頃には50万挺もの鉄砲を世界一保有する国になつたのである。鉄砲がなければ、天下統一も成し得なかつたと言われる。もしかすると、戦国の世が続いていたのではないかと言われるほどである。国産火縄銃誕生は、歴史を変えたイノベーションと言えるのではないだろうか。私たちにもその魂は引き継がれているはずである。

考:NHK「英雄たちの選択」7/14 放送、鹿児島県HP、NHKHP、株国元商会HP

## 人権週間 12月4日～10日

昭和23年(1948年)12月10日、国際連合第3回総会において、全ての人民と全ての国とが達成すべき共通の基準として、「世界人権宣言」が採択されました。

世界人権宣言は、基本的人権尊重の原則を定めたもので、人権保障の目標や基準を初めて国際的にうたつた画期的なものです。採択日である12月10日は、「人権デー(Human Rights Day)」と定められています。我が国では、人権デーを最終日とする1週間(12月4日から12月10日)を「人権週間」と定め、昭和24年(1949年)から毎年各関係機関及び団体とも協力して、全国的に人権啓発活動を特に強化して行われています。

私たちにとっても人権問題は身近な問題です。集団で生活していると良いことがある一方、トラブルも少なからず生じます。人誰しも自分を守りたい、傷つけられたくないという意識や自分が間違っていたとわかっていても、自分の非を認めることができないという弱さをもっています。そのことにより、ついつい相手に対して攻撃的になってしまい、逆に傷つけたり、言ってはいけないことややってはいけないことをしまったりすることもあります。だからこそ、「そういうことはダメ」ということを自分に言い聞かせ、みんなで確認する機会が必要と考えます。人権週間において、これまでの自分を振り返り、これからどう過ごしていくべきなのかを改めて考えてみましょう。「相手を思いやる」「いじめは絶対にダメ」といった行動規範をしっかりと持つ人が大多数を占める集団は、落ち着いています。そうでない場合はトラブルが多発しますし、落ち着かない状態になると体験的に感じます。落ち着いたよい雰囲気の集団は、正しい行動規範を持つ個々によってつくられます。

## 人権週間

12月4日～10日 12月10日は人権デー。

「誰か」のこと  
じゃない。



身近な人権問題を知るためにショートストーリーはこれら

お隣りで、人権意識を高めたり知識を深めたりの参考書等を行なっています。

みんなの人権110番 LINE@: @linejinkensoudan

TEL: 0120-007-110 FAX: 0570-099011

570-003-110 https://www.jinken.go.jp/

人権監視局 HP https://www.moj.go.jp/JINKEN/index.html

憲法個人情報保護・個人情報委員会連絡窓口

人権週間 12月4日～10日

## 「誰か」のこと じゃない。

人権週間

12月4日～10日

## 2学期期末テスト終了

19～21日で行った2学期期末テスト。1学期終わりから2学期までの学習範囲の理解度を確認するためのテストであるが、どうだつただろうか。範囲が決まっているとは言え、直前にのみ取り組んでも自分の理解にはあまりつながらない。学習したその日、もしくはその週で復習することで定着率も学習の効率もよくなる。次に勉強への向き合い方がやはり反映されるものである。自分のつくった答案用紙、採点されたものを今一度、よく見てみよう。解答欄は全部、記入されているか。しっかり覚えていないものはなかったか。計算方法ややり方を間違つてはいないか。質問を理解し、それに的確に答えられているのか。文字は丁寧かつ、計算などきちんと整つて、きれいなものになっているかなどを家族の方と一緒に確認しよう。また、間違つたところが学力向上の重要なポイント。正答をしっかり覚え、正しい解き方を身につけよう。最後に、できるまでやる、何事もこれが最も重要である。

## 第6回PTA総務委員会 第2回7校PTA

27日は第6回PTA総務委員会。第5回の会以降の振り返り、今後の行事予定やその準備について話し合われた。この会も年度内、あと2回ということだった。皆さん、ご自分の仕事や地域活動、家庭生活と並行しながら取り組んでくださっている。実にありがたい。先日のバザーも係の方々の企画・運営はもちろん、駐車場整理、会員の皆さんとの協力などもあって楽しいひとときを生徒たちも過ごすことができたと思う。感謝申し上げたい。

また、翌28日には7校PTAが行われた。今回が第2回。和やかな雰囲気の中、各校のPTAの現状、課題、今必要とされるPTAの在り方等について、質疑がなされた。

## 第2回学校保健委員会

20日に行われた第2回学校保健委員会は、「子どものネットリスク教育研究会 鹿児島県支部長」戸高成人さんを講師にお迎えして、教育講演会という形式で実施しました。スマートフォンやタブレットの普及は、便利で豊かな生活が送れる一方で、依存症や昼夜逆転といった問題の要因にもなっています。これらの現状を踏まえ、今回の講演では、子どものメディア依存がもたらす健康への影響と家庭での対処法についてお話をいただきました。今回の講演においては、ネットリスク等について、1回知ればいいというのではなく、繰り返し学ぶことや新たな情報を取り入れていくことの大切さを強調されました。お聞きになった方々は、来られていなかつた方との情報共有も是非お願いします。